

## 第6回 総括検討会 議事録

1. 開催日時：平成18年12月8日（金）10：00～12：00
2. 開催場所：電気協会 4C会議室
3. 出席者：（順不同，敬称略）
  - 委員：柴田主査（東京大学名誉教授），原副主査（東京理科大学），久保副主査（東京大学），白井幹事・金谷（関西電力），野田・土方（東京電力），植田・遠藤（日本原電），金津（電中研），久野（中部電力），清水（大林組），田中（原子力安全基盤機構），中川（日立），吉賀（三菱重工業），森山（大成建設）藪内（鹿島建設），小川（清水建設），（計18名）
  - 代理出席：増田（東芝・中島代理），石崎（竹中工務店・神地代理），（計2名）
  - 欠席委員：秋野（計1名）
  - オブザーバ：西村（東京電力），花田（日本原子力技術協会）兼近（鹿島建設）（計3名）
  - 事務局：大東、荒木（日本電気協会）（計2名）
4. 配布資料
  - 資料 No.6-1 第5回総括検討会議事録（案）
  - 資料 No.6-2-1 第1章 基本事項
  - 資料 No.6-2-2-1 第2章 耐震重要度分類
  - 資料 No.6-2-2-2 本文添付 - 2.1 各設備の具体的な耐震重要度分類
  - 資料 No.6-2-2-3 本文添付 - 2.2 地震時又は地震後に動的機能が要求される設備
  - 参考資料 1 第7章 機器・配管系の耐震設計での Sd
  - 参考資料 2 第6章 建物・構築物の耐震設計での Sd

## 5. 議事

### （1）代理出席者の承認及び前回議事録の確認

事務局より、本日の代理出席者は2名であり、代理出席者については規約に基づき柴田主査の承認を頂いた。また、代理出席を含む出席委員は20名であり、規約上、決議に際して求められる委員総数の2/3以上の出席であることが確認された。

また、事務局より前回議事録（案）の紹介を行い、出席者全員の賛成で了承された。

### （2）前回検討会以降の動向について

幹事より、最近の動向として以下の紹介が行われた。

- ・月一回の頻度で分科会を開催し、JEAG4601 は機器関係を除き概ね纏まりつつあり、今年度中には、分科会の各論審議は概ね終了となる見込みである。
- ・先行発刊予定の基準地震動策定・地質調査編は、先日の原子力規格委員会に諮られたが、エンドースする規格としては仕様規定でなくてはならないとの、かなり強い意向もあり、

4月以降、先行発刊分を含め一括して纏める段階では考慮していく必要があると考える。

### (3) 第1章 基本事項及び第2章 耐震重要度分類

資料 No.6-2-1 により第1章 基本事項、資料 No.6-2-2-1～3 により第2章 耐震重要度分類について説明が行われ審議した。コメント箇所を修正し、次回の耐震設計分科会に諮ることについて、出席者全員の賛成で了承された。

主なコメントを以下に示す。

#### (第1章 基本事項)

- ・1.2.1 適用範囲で、技術規格 JEAC4601 は、技術規程 JEAC4601 に修正する。また、先行発刊する地震動・地質調査編を除き、エンドースされるための CODE ( J E A C ) として整備していく方針、具体的記述法などについて、文書で各検討会の末端まで周知するよう主査より指示があった。
- ・1.4 用語と略称にある地震動等は先行発刊分でも定義しているが、複数の章にまたがるものは1章で定義し、個別の章で出てくるものは、各個別の章で定義するという基本的な考え方で、合本時に見直すこととした。
- ・原子炉施設の定義は、1.2.1 適用範囲では陸上の原子炉施設だが、1.4.1 用語では別の定義となっており混乱することはないか。
- ・1.4.2 略称に、旧審査指針(S53 年原子力委員会制定、S56 年原子力安全委員会制定)を追加することとした。

#### (第2章 耐震重要度分類)

- ・シビアアクシデントについて安全設計体系を確認し、必要があれば追記すること。

### (3) 柴田先生からの話題

#### a. J E A G と J E A C の違いについて、裏書 ( エンドース ) の問題

原子力規格委員会では、少しでも規定するものが含まれば、原則 J E A C として整備していくというのが、成文化された基本方針であり、先行発刊する地震動・地質調査編に選択的な規定を含んでいることから議論があった。

また、ボーリング本数等、具体的なことを、仕様規定として記載すべきというエンドースの審査関連の委員からの意見があつた。これは、現在の記載の状況では、将来エンドースされないこともありうることを意味している。

エンドースは、審査の促進、申請者の便宜のためであり、エンドースされていない規定類 (例えば海外の規定類) によるとすると、各申請者に説明義務が生じ、その作業が膨大になると考えられるが、それはここでのこととは、別問題である。

b.串団子モデルの将来と、3Dソフト

これまで使用実績がある串団子モデルの他に、今は、市販など、建物のねじれ等を直接評価できる3Dソフトがある。両方法の解析精度やモデル作成時の経済的な負担等を今後比較・検討する必要がある。

c.複数の応答スペクトルからの波形作成

複数の応答スペクトルをとることによって、より精度の高い設計ができる主旨を解説に入れることを考えてもらいたい。

d.Sdについての機器設計のための床応答レベルでの括り

地震の種類が多いので、建屋に入るところで絞るのか、又は床応答まで評価後に絞り込むのか、今後議論したい。

e.施設”という語の使い方と、最近進行中のIAEAでのSG作成での議論

最近のIAEAでのセーフティガイド(SG)で、ファシリティ(facility)という言葉がインストール(installation)に変更されている。ここでも施設という言葉の使い方を整理しておく必要がある。

(4)その他

- a. 本検討会の委員に火山検討会幹事の酒井氏を加えるよう耐震設計分科会に諮ることとした。
- b. 次回総括検討会は、1月12日AMで調整することとした。

以 上